



大分県院内町の石橋群

Stone Bridges in Innai-cho of Oita-ken

二神健次

FUTAGAMI Kenji

パシフィックコンサルタンツ株式会社
技術本部/管理部長



日本一の石橋群
大分空港から、一路高速道路で院内インターに向かった。院内町には、たくさんの石橋があり、その数の多さで日本一の石橋群といわれている。これらは江戸時代から昭和の初期にわたって架けられ、多くが今も使われており、町の生活に溶け込んでいる。院内町という小さな町に、大小合わせて、その数74橋もの石橋がある。院内町では、恵良川が南北に流れており、そこに流れ込んでいる多くの支流がいくつもの深い谷を形成している。石橋が多いのは谷をはさんで点在した集落を結ぶためと、川が急流で木橋では流されてしまうためという背景がある。

石橋を架けるには、それなりの技術が必要である。石橋の技術は、江戸時代初期に中国の僧によって長崎に伝えられ、以後、九州全域に広まったと伝えられている。院内町には、段々畑の石垣や、水路を造るため、石工の技

術があり、「匠の技」があった。なかでも「石橋王」と呼ばれた名棟梁・松田新之助は、関西でアーチ設計の技術を学び、明治30年に帰郷した後は、院内町に合った石橋アーチの架設に情熱を注いだという。

代表的な石橋
院内町の代表的な石橋を恵良川の下流から上流に向かって見て回った。
鳥居橋は、5連アーチの石橋で、そのスパン、高さがすべて異なっており、それが逆にリズムカルな心地よさを伝えてくる。天に伸びたすらとした橋脚から「石橋の貴婦人」と呼ばれている。1951年の「ルース台風」で、川は水位が12メートルを超え氾濫し、町内242戸が全壊するという大水害となったが、鳥居橋はびくともせず残った。川底の地盤や水流の特徴を十分に考慮した橋脚が功を奏したのだといわれている。1916年(大正5年)に架設され86

写真1[前頁]-石橋の貴婦人と呼ばれる鳥居橋
写真2[左上]-たくましい御沓橋
写真3[左中]-美しい2連アーチの荒瀬橋
写真4[左下]-豊後富士が見えることから名前が付けられた富士見橋
写真5[右下]-近代的な美しい分寺橋
図1[右下]-いんない石橋マップ

年間もの風雪に耐えた(写真1)。
御沓橋は、長さが59mと町内で一番長く、周囲の環境と調和した水面に映える3連アーチのたくましい橋である。夜間にはライトアップされている(写真2)。
荒瀬橋は、高さが18.3mと町内で一番高く、2連アーチの端正な石橋である(写真3)。
富士見橋は、1914年(大正3年)年架設中に突然崩落し、工事の責任者であった松田新之助は私財を売り払い莫大な資金を捻出して完成へと導いた。3連アーチのた

くまさが伝わってくる石橋である(写真4)。
分寺橋は、院内町では比較的新しく造られた橋であり、1945年(昭和20年)戦時中に架設された。この橋は、近代的な美しさがある3連アーチであり、戦時中にもかかわらず、丁寧に積み上げられている(写真5)。
この他に、たくさんの小さな石橋があり、石橋だけを見て回っているとその重厚さに、ふと中世のヨーロッパの石造りの街と錯覚しそうになった。
参考資料
・http://www.ja-oitasa.or.jp/ishibashi-new.html
・いんない石橋マップ 院内町教育委員会 社会教育課